

第 19 回全世代型社会保障構築会議 国土典宏コメント 2014.11.15

清家座長、構成員の皆様、事務局の皆様、本日は私共が主催する国際シンポジウムと日程が重なって欠席となり大変心苦しく存じます。事前に戴いた資料を拝見しての意見を文書として提出いたします。私こと厚生労働省の「医師養成課程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会」の構成員も務めさせていますので今回は医師偏在対策に絞って意見を述べさせていただきます。

まず、資料1の総理発言に少子化対応と地方創生を政権の大きなテーマとして取り組むという意思を示されたことに敬意を表します。「若者・女性にも選ばれる地方」の構築こそが医師の地域偏在の抜本的解決法であることは論を待ちません。つまり、「若手医師・女性医師にも選ばれる地方」の構築をまず目指すべきであると思います。

地域偏在の是正を医師養成課程で半ば強制的に行うことは若い世代に負担を押しつけることになり個人的には賛同できませんが、一定の効果を上げてきました。資料2の14ページにありますように、卒前レベルでは「医学部地方枠定員」の増加、初期研修医養成課程では「医師多数地域のマッチング定員の圧縮と広域連携プログラム（後者は導入予定）」、専門医養成課程では「医師多数地域定員のシーリング」という対策が取られています。それより上の世代に対しては資料2の20ページ「厚生労働省医師偏在対策推進本部資料」にあるように「総合的な対策パッケージ」が提案されています。抜本的な解決法が無いため対策をパッケージとして行うことには賛成です。その中で特に経済的インセンティブはやはり必要で、医師のキャリア形成子育てなどと医師少数地域派遣の負担やコストを両立させるためには必須であり、所謂ディスインセンティブであってはならないと思います。

診療科の偏在も対策が必要です。外科系の中で特に消化器外科医の高齢化と将来の大幅減少予測が最近特に問題視されています。消化器外科医はがんの中で最も多い消化器がん手術や腹膜炎などの緊急手術を担当するだけでなく、抗癌剤治療、内視鏡検査・処置、終末期医療などマルチタスクで地域医療を支える存在です。資料2の6ページの資料によると85歳以上では緊急手術を要する頻度も減少するとありますが、今や消化器がんは高齢者の病气であり、80歳以上のがん手術は珍しくありません。将来の医療需要予測を正確に行った上で、地方偏在対策とセットで計画的な配置と集約化を検討するべきであると思います。経済的インセンティブはここでも重要です。外科医を対象としたアンケートでは収入に対する不満が上位を占めます。他診療科に比べて繁忙度が高く拘束時間が長く、合併症のリスクもあるのにそれに見合う評価がなされていないという不満です。また、消化器外科は特に女性外科医が少ない領域です。子育てとキャリアが両立できる体制の整備と経済的インセンティブがここでも必須であると思います。

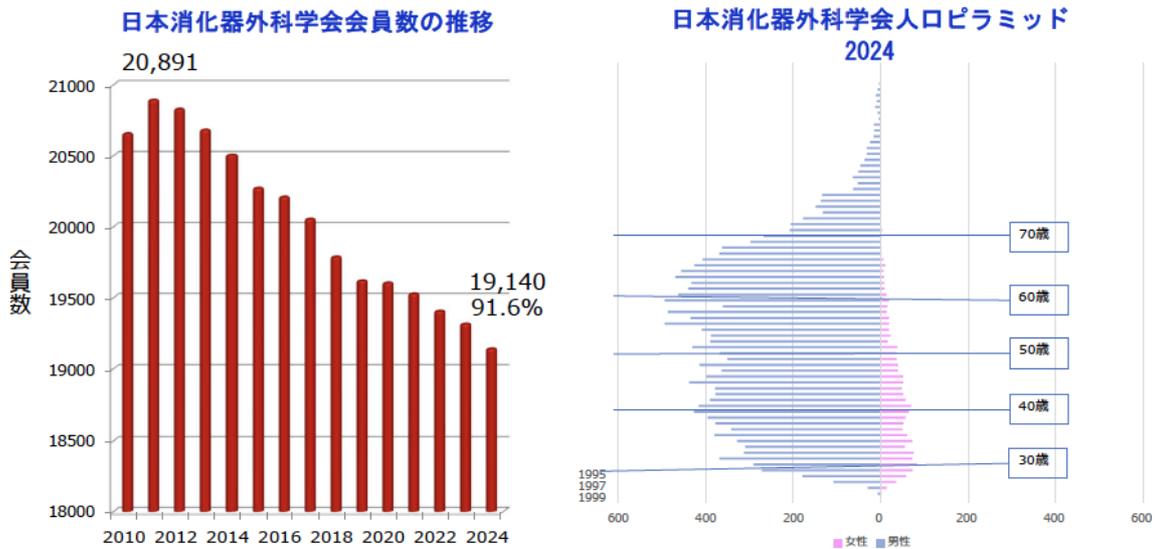
以上

参考資料

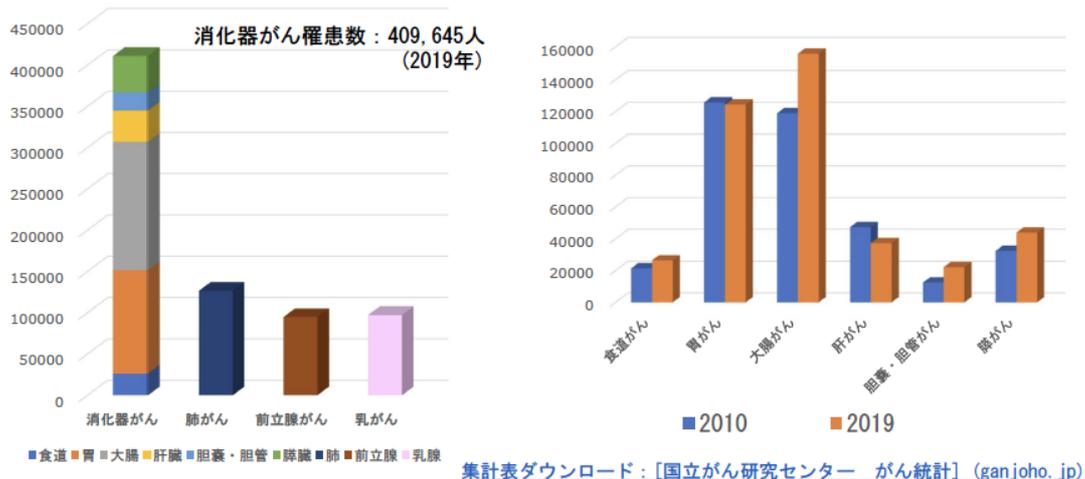
第7回医師養成過程を通じた 医師の偏在対策等に関する検討会	資料2
令和6年10月30日	

<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/001322762.pdf>

日本消化器外科学会の会員の推移と男女別年齢分布



本邦におけるがんの罹患数と推移

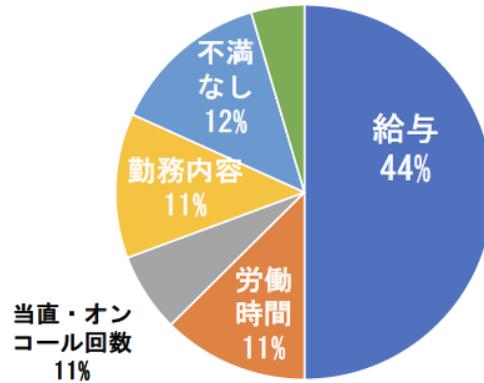
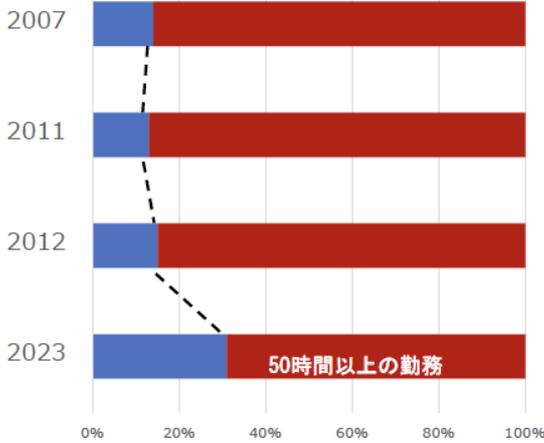


消化器外科医は年間40万人以上発生する消化器がんの治療に幅広く対応している。手術件数は今後大幅に増えることは見込まれないものの、消化器がんは主要ながん種であるため引き続き消化器外科医の果たす役割は大きい。

会員のアンケートからみた労働時間と不満の原因

アンケートからみた1週間あたりの平均労働時間の推移

現在の勤務状況で最も不満に思う点は？



労働時間は短縮傾向だが、週50時間以上の勤務時間が70%近くに見られる。

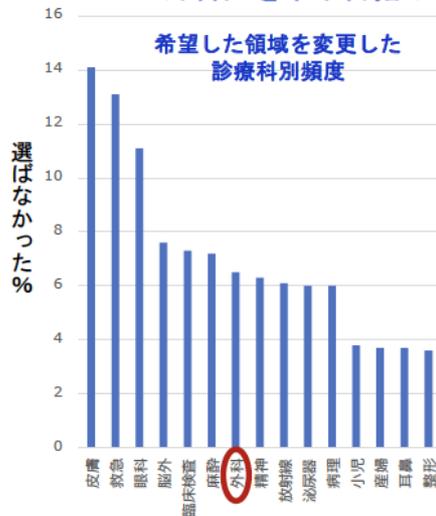
長時間労働が十分改善されていない現状にも関わらず、最も不満な点は給与の面であった。

ワーク・イン・ライフ委員会アンケート2023
2,932(19%)が回答。

9

なぜ外科が若い医師に選択されないのか？

外科医を本来目指していたが、外科を選択しなかった109名の理由



労働環境に関すること

- ワークライフバランスの確保が難しいから 33.9%
- 医師が不足しており過酷なイメージがあるから 21.1%
- 出産・育児・教育に協力的でないから 19.3%
- ハラスメントが多そうだから 12.8%
- 給与等処遇が悪いから 9.2%

将来設計に関すること

- 将来的に専門性を維持しづらいから 24.8%
- 継続したキャリアプランが見えづらいから 13.8%
- 専門医が取得しにくいから 8.3%
- 専門領域の将来性に不安を感じたから 8.3%
- 開業しにくいから 6.4%

その他

- 仕事の内容が想像と違った 15.6%
- 適性・才能がないから 11.9%
- 訴訟のリスクが大きいから 5.5%
- 生命に直結するから 4.8%

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
日本専門医機構における医師専門研修シーリングによる医師偏在対策の効果検証総括研究報告書

以上